



会長	小林 幹夫	青少年奉仕	橋本八右衛門
副会長	道尻 誠助	幹事	正部家光彦
クラブ奉仕		会計	佐々木泰宏
会長エレクト	紺野 広	会場監督	峯 正一
職業奉仕	妻神 和憲	直前会長	小井田和哉
社会奉仕	地代所久恭	副幹事	松本 剛典
国際奉仕	中村 稔彦	会計補佐	山村 和芳

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 荒谷 達也
 同委員 廣田 茂 同委員 道尻 誠助

国際ロータリーのテーマ — 2022~23 — 八戸ロータリークラブのテーマ
イマジン ロータリー **ロータリーの力を信じよう!**

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

八戸ロータリークラブ会長 小林 幹夫

2月 は 平和と紛争予防 / 紛争解決月間です

————— **第3259回例会** 2023.2.8 —————

会長要件 道尻 誠助 副会長



先日、ロータリークラブ創立者のポール・ハリスが一度だけ日本を訪れていることを知りました。88年前、1935年2月9日のことです。世界各国のロータリークラブを3年かけて訪問した一環として訪れました。ポール・ハリスは当時67~69歳。心臓病をかかえてのあえて世界一周の視察を試みたのは現在と似たような状況にあった、高まりつつあった国際間の緊張をロータリアンによる友情を通じて緩和しようとする試みだったのではないかとされています。残念ながら翌月3月27日に日本は国際連盟を脱退しました。世界は混乱が続き、5年後第二次世界大戦へと突入することとなったのです。誰もが望む世界平和のためにロータリアンとして何ができるか。考えさせられることばかりです。

幹事報告 正部家光彦 幹事

○かるた大会はたくさんの会員に来ていただいて、準備、後始末があつという間に終わり



ました。感謝申し上げます。
 ○ロータリー米山奨学会より、2022年1月~12月までに寄付された方に、「確定申告用領収証」が届いております。

メールボックスにお入れしております。*再発行は致しませんので、大切に保管してください。

○2月11日(土)に南グループのインターシティ・ミーティング(IM)がアーバンホールで開かれます。当クラブからは16名参加となっています。土曜日14:30受付、15:00開会式典、15:30講演会。十和田八甲ロータリークラブの水尻さんの講演、「十和田子ども食堂の新たな試み」ということで、子ども食堂バスが美味しく、楽しく“食”を届けますというような内容です。

委員会報告



親睦・会場委員会
 増田 敏委員
 ○ニコニコボックスの報告
 ・結婚記念日 小井田和哉
 福島哲男さん

中村稔彦・奈良全洋・熊谷清一 } ニコニコ
赤澤栄治・正部家淳司さん } デー

2月5日開催「第18回八戸市競技かるた小中学生大会」参加報告 植草 務さん



当日朝8:30頃に約18名のロータリアンが参加し、ふすまを外して会場設営をしていただきました。その後、小林会長、吉田誠夫吉田産業社長から開会のごあいさつがあり、全日本かるた協会の和田先生と工大二高の競技かるたクラブの生徒さんからご協力いただき、大会が始まりました。

大広間に9名とひじょうに少なく、寂しい思いをしましたが、参加者9名と工大二の競技かるた部の皆さんがかるたを取る真剣な眼差しで活気があったのかなと思っています。

皆さんは競技かるたのルールをご存じですか？わたしはかるたは100枚あって、枚数を多く取ったほうが勝ちと思っていましたが、全然違いました。100枚のうち50枚を使うらしく、25枚ずつ自分のところにやって、自分の陣地に向いた25枚がなくなった方が勝ちということになっているそうです。必ずしもいっぱい取ったから勝ちと言うことではないと聞き、ひじょうにびっくりしました。ひじょうに活気、熱気があり、子どもたちが一生懸命やっている姿に感銘しました。

13:00～表彰式を開催し、小林会長から賞状、メダル、吉田産業さんからは「吉田産業賞」、種市先生から参加者一人一人にトミーの百人一首の車をお渡しいただき、無事に終わりました。先ほどもお話がありましたが、2月7日デーリー東北さんと東奥日報さんに活動のようすということで掲載いただきありがとうございました。

今年は9名の参加でひじょうに少なかったのですが、3年前は100人くらい参加者がいたとお聞きしました。来年は早めに告知等を行い、もっと盛大にやっていきたいと思しますので、宜しくお願いします。

ロータリーの友委員会 深澤 隆委員長



小田山紀暢さん、山村和芳さん、峯正一さんの3人の方にバトラーをお願いしています。山村さんがいらっしゃいませんので、わたしが代読することになっているという、不思議なビブリオバトルになるかもしれません。

バトラー



小田山紀暢さん：紹介記事

「この人を訪ねて」柳澤育代さん（奈良RC）

縦組みP9シリーズ「この人を訪ねて」のコーナーをご紹介します。今月号は奈良ロータリークラブの柳澤育代さんの特集です。この方は20年間アメリカに在住されていた時期もあり、その時にニュージャージー州のイングル・ウッドロータリークラブという90年以上の歴史のあるロータリークラブの在籍されていた。初の日本人会員、90周年時の2013-14年にはそのクラブの会長もされた方です。実家の家業を継ぐために日本に帰ってこられ、現在は奈良ロータリークラブに在籍されています。

記事の中ではこの方の半生、生い立ちからどういう経緯で日本に帰って来たかにも触れられています。この方の実家の家業は和包丁を販売するお店だそうで、鎌倉時代から続いている、元々は刀鍛冶の家系だそうです。この経営されている会社の名前も菊一文文殊四郎包永という、日本刀の一振りになりそうな名前の会社を経営されています。

実際に鎌倉稀代の古文書にもこの包永という刀匠が登場して、江戸時代には徳川家康に刀を納めたりなど、本当に由緒あるおうちの生まれの方だそうです。明治以降は包丁店に切り替えて、代々包丁店として営業されてきたそうです。

この柳澤さんも跡継ぎ娘という重責を感じ、一時期家を飛び出し、そのままアメリカに20年間住んだという方です。ご実家の包丁店が経営があまり思わしくなくなってきたので、日本に帰ってこられた。そしてこの記事の中

で、柳澤さんが継いだ後でどういった取り組みをして、経営を立て直されたか、アメリカに住んでいた時代の経験や感性を生かした新しい取り組みがこの記事の中で具体的に書かれています。

この方がすごいなと思ったのは、ニューヨーク在住の時の人脈でアメリカで日本食ブームのときにもいたそうで、日本の包丁の技術をアメリカにも広め、かなり売り上げにも貢献されたということを見て、これはすごいと感じました。日本に帰ってきてからも新しいお土産を開発したり、それが主力商品になったりということも書かれています。

わたしが記事を読んで感じたのは、包丁の技術、古くは刀鍛冶の技術など古くから伝わる日本独自の伝統文化、歴史ある技術をどのように後世に残していくか、それを今の時代に合わせた、マッチングさせて次世代にどういうふうに引きつけていくかというテーマの一つのモデルケースとしてとても興味深いなと思いました。ご興味をもっていただけた方はぜひご一読いただければと思います。

質疑応答

深沢：日本の文化ということから何かありますか？自分が伝えられる文化

小田山：テレビの特集で日本刀の特集を見ましたが、持つのはもちろん禁止ですが、実際に残っている日本刀もあるということで、その砥ぎ師さんが少なくなっているといっていました。後継者がいなかったり、経営がたいへんだということを知るので、それを時代に合わせて形を変えて残していくのはすごく大事だと、この記事を読んで感じました。



山村和芳さん紹介記事「ネットワークのすごさ」

代読 深沢 隆委員長
山村さんから預かった原稿を代読します。

横組みP38ニュージェネレーションの記事「ネットワークのすごさ」です。

わたしが選んだ記事は大阪府堺市に住むローターアクターの原谷あすかさんの投稿で

す。彼は2012年高校入学時にインターアクトだけ聞いてどんな活動をしているか分からずに入会したのがきっかけになったそうです。それから奉仕活動を通じてたくさんのことと出会い、いろいろな活動を通じて、18歳のときにローターアクトクラブに入会しました。

その後、ローターアクターやロータリアンと話す機会も増え、視野が広がり、地区のローターアクト会長を務めた後、知識が乏しかったためいろんな場面で周りから知恵を力を貸してもらい、現在は松原ローターアクトクラブの会長を務めているそうです。

実際にわたしが高校生のときにインターアクトクラブと聞いて入会したか考えると、少し近寄り難い気持ちもしますが、いろいろな活動の中で人との出会いや奉仕というものも無駄にはならなかったような気がします。

それでもやはり18歳という若さで奉仕活動が続けていく気持ちを持てたことは素晴らしいことだと思いますし、自分には想像もつきません。そんな彼も一度体調を崩し、仕事を辞めているそうですが、出会ったロータリアンに声をかけられ、現在その方の設備関係の会社に就職することができたそうです。

ロータリーを通じて多くの経験を重ね、学ばせていただいている中で、今度はそれを次の若い世代にレクチャーし、サポートするという使命を抱かれているのも、今のロータリアンには必要不可欠だと感じました。何がきっかけとなるのか、どんな出会いがあるかわかりません。彼のように高校生でも興味を持ち、活動を通じてたくさんの学びが得られ、たくさんの仲間ができ、楽しさを伝えられたら、経験したい学生も増えるかもしれません。

そしていずれはロータリアンの仲間になるかもしれません。わたしもロータリアンとして経験は浅いのですが、少しでもインターアクトクラブ、ローターアクトクラブのことを少しずつ学び、伝えられたらと思います。

(深沢 隆)

この方は大豊システム勤務。精華高校インターアクトクラブの元会長。現在は松原ローターアクトクラブ会長。山村さんはご自分は

抱いた、自分が入っていたかどうか、インターアクト、ローターアクトという流れができ、その後いずれはロータリアンという流れを伝えたかったのではないかと思います。



峯 正一さん 紹介記事「地区大会の在り方への疑問」

友愛の広場の「地区大会の在り方への疑問」として岡山後楽園ロータリークラブの岡村和則さんの記事を紹介します。

岡村和則さんの記事を紹介します。

記事を読むとわかる通り、在籍30年とありますので、開業医だとすれば60~70歳くらい。いずれにしても、そのロータリークラブでは中堅所かベテランの域に達している方だと思います。また記事を読むとわかる通り、会長として投稿しているようです。

「地区大会への在り方への疑問」云々の前に読んでいるとクラブに対して不満があるようです。一つにはクラブの長年の習慣で年会費で寄付を集めているのをよく思っていないようです。八戸クラブも少額ではありますが、米山寄付を年会費に含めて徴収していますが、わずか2,000円ですので大したことはないのですが、こちらの岡山後楽園クラブでは米山10,000円、ロータリー財団100ドルとかを通年の会費に入れているのではないかと思います。

皆さん、地区大会に行けばわかると思いますが、だいたい毎年同じパターンでやっています。わが2830地区も同じです。ただその中にはR I 会長代理の講演もしくは外部の方の講演、恐らくガバナーの肝いりでこういうことを話して欲しい、また外部の方にはこういうことをメインにしてお話ししてくださいというふうにやっていますので、それで特色を出すしかないと思っています。

特にわたしは源新和彦年度の、あの時コロナが始まって、R I 会長代理が来ませんでした。当地区の山崎パストガバナーがR I の現況報告ということですのでごく興味深い話をされたのを覚えています。国際協議会の研修リーダーを2年続けてやっているから、幅広

い知識を持っていることだと思いました。

国際協議会のR I の研修リーダーは、築館智大さんが1週間行きましたが、その前に1週間行ってR I 会長から勉強を受けて、それをガバナーエレクトに教える役目で、都合2週間の滞在になります。

岡山県は鳥取県と島根県と3県で1地区です。もしかすると何か行くのに時間がかかって、地区大会に行ってその分時間がかかる割には地区大会が面白くないのかなと思ったり。これもわたしの考えです。その辺のこともちょっとわかりません。例えば、北海道なら礼文島、利尻島にもロータリークラブがありますから、聞いた話では地区大会に行くまでに時間がかかるときは1週間くらいかかって帰ってくるというような話も聞いたことがあります。今、岡村さんがクラブばかりでなく、地区に対して別に何か不満があるのを文章にしたのかと思っています。

記事を読んでくれとは言いませんが、チクリとした話を皆さんにお話しして終わります。

質疑応答

妻神：貴重なお話をいただき、誠にありがとうございます。わたしは築館ガバナー年度で地区大会の実行委員長をやらさせていただくことになりました。峯さんのお話を聞きながら目を通しました。今年度の地区大会にむつに行ってきました。自分でいろんな思い、こうしたらいいな、ああしたらいいなという部分がさまざま出ました。今、橋本八右衛門さん、幹事長の石橋信雄さん、総務の小井田さんと4人で集まりながら、いい大会になるように諸々進めていっている最中ですので、貴重な意見だなどと思いました。

やはり人がいっぱい集まるような会にしたいと思っています。このクラブがみんなで盛り上げて、それをやらないといいものになりません。今月はDDTS、PETSと始まって、地区協議会などみんなで協力してやっていく一つのきっかけとして、峯さんにすばらしい発表をしていただいてありがたいと思った次第です。